



わかむぎ

No.12 令和6年3月19日 発行/古屋 正樹



真っ直ぐに見据える視線の先には
未 来 が . . .
「一生懸命が一番かっこいい」の
伝承者たちは
今 未来に向かって旅立ちました

第77回卒業証書授与式 ～有終の美～

3月11日、穏やかな日差しのもと、193名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。1万余名の卒業生を輩出する押原中学校では、今回が77回目の卒業証書授与式となり、厳粛でありながらも温かな雰囲気の中で挙行することができました。塩澤町長様をはじめ、たくさんの来賓の皆様並びに保護者の皆様、さらには本校教職員と2年生の見守る中、193名の卒業生は新たなステージへと旅立っていきました。

清々しい表情の生徒、きりりとした態度の生徒、目を潤ます生徒、しっかりと前を向く生徒、一人一人がこの3年間をしっかりとかみしめるように、中学校生活最後の時間を過ごしていました。3年間の様々な思いが刻み込まれた卒業証書を手にした凛々しい姿からは、中学校生活における達成感や満足感、そして、これからの決意が感じられました。

卒業生の答辞では、最高学年としてのやりがいと苦悩、家族や友達の存在、支えてくれた方への感謝など、今の純粋な気持ちが呼びかけとして伝えられました。卒業生代表の志村勇太さんの言葉の中にも、



コロナ禍の不安や苦悩、当たり前前の生活のありがたさ、家族や友達の温かさ、それを糧として全力で取り組んだこの1年と、充実と感謝、そして、決意に満ちた言葉が切々と語られました。答辞の中で歌われた合唱曲「一詩人の最後の歌」「群青」にも、卒業生の強い思いが込められており、聴く者を魅了する**緑学年**の圧倒的な歌声が披露されました。

目を潤ませ、退場していく姿から、一人一人の「成長」と最後の授業(=卒業式)をやり切った「達成感」が感じられ、体育館全体が「**幸せのオーラ**」に包み込まれていました。193名の進む道が、ステキな出会いに恵まれ、幸せに満ち溢れていることを切に願うばかりです。これからも「**一生懸命が一番かっこいい**」を胸に、一人一人の輝く姿を祈っています。改めて「卒業おめでとう」。



2年生から ~送辞~

卒業生の答辞に先立ち、2年生から送辞が贈られました。生徒会長の加賀美花さんからは、卒業生に対する感謝の気持ちと押中を受け継ぐ覚悟とが、また、2年生全員からは卒業生の頼もしさが伝えられ、合唱曲「春に」において、卒業生と過ごした日々を思う心模様を見事に歌い上げていました。

1年間教え導いてくれた先輩に、また、2年間を共に過ごした仲間に、心からのエールが贈られました。

卒業生からバトンを引き継ぎ、押中の伝統をさらに深化させる決意をもった、2年生の頼もしい姿がそこにありました。



1年生から ~卒業生に贈る合唱~

3月8日、一足早く1年生から卒業生に向けたお祝いの合唱が披露されました。「空駆ける天馬」、1年生がこの1年間歌い込んできた曲です。入学以来お世話になった卒業生に、感謝の気持ちを込めて歌いました。卒業生の背中を追い続けた1年生も、もうすぐ2年生です。新3年生と新1年生のパイプ役になれるよう期待しています。



1年間ありがとうございました

この1年、579名の生徒は常に感動をもたらしてくれました。その活躍が、家庭・地域の元気につながってくれていれば幸いです。生徒を、そして押中を支えてくださった保護者・地域の皆様、町当局の皆様にご心より感謝申し上げます。令和6年度も、我々押原中学校は全力で進む所存です。今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。(校長 古屋)